

## 国立大学法人京都工芸繊維大学の中期計画新旧対照表

| 現 行   | 変 更 案   | 変更理由  |
|---|---|---|
| <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p style="text-align: center;">〈 中 略 〉</p> <p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p style="text-align: center;">〈 中 略 〉</p> <p>(3) 国際化に関する目標を達成するための措置</p> | <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p style="text-align: center;">〈 中 略 〉</p> <p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p style="text-align: center;">〈 中 略 〉</p> <p>(3) 国際化に関する目標を達成するための措置</p> <p style="text-align: center;">〈 中 略 〉</p> <p>4) <u>スーパーグローバル大学創成支援事業の推進に関する計画</u></p> <p>① <u>スーパーグローバル大学創成支援「OPEN-TECH INNOVATION ～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～」事業の目標達成に向け、平成27年度中に、海外派遣制度による7名以上の教職員の長期海外派遣、4回以上の海外研究者を交えた地域企業対象の国際セミナーの開催、学部1年次生に対するTOEIC受験や英語スピーキングテストの全学的実施、国際化を先導する「国際化モデル研究室」として7以上の研究室に対する国際的教育研究活動への重点支援等の取組により、国際競争力を強化するための人材・場</u></p> | <p>スーパーグローバル大学創成支援「OPEN-TECH INNOVATION～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～」事業の実施に伴う変更</p> |

・カリキュラムの魅力化を推進する。

< 中 略 >

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置  
1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

< 中 略 >

2) 人事制度の改善に関する計画

< 中 略 >

- ④ 学内・学外のプログラムを活用して計画的に研修を行うとともに、自己研鑽の機会を積極的に提供する。また、若手教員育成のため、海外の教育・研究機関に年2名程度を派遣する。
- ⑤ 多様な人材を確保するため、人事・給与システムの弾力化に取り組む。特に、適切な業績評価体制を整備し、年俸制を導入・促進する。

< 中 略 >

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置  
1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

< 中 略 >

2) 人事制度の改善に関する計画

< 中 略 >

- ④ 40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を全学的に拡大し、教育研究を活性化するため、若手教員の雇用に関する計画に基づき、平成27年度中に40歳未満の教員を、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員として、新たに10名以上雇用する。
- ⑤ 学内・学外のプログラムを活用して計画的に研修を行うとともに、自己研鑽の機会を積極的に提供する。また、若手教員育成のため、海外の教育・研究機関に年2名程度を派遣する。
- ⑥ 多様な人材を確保するため、人事・給与システムの弾力化に取り組む。特に、年俸制については、適切な業績評価体制の構築を前提に、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員について年俸制導入等に関する計画に基づき促進する。

国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）  
「優れた若手研究者の採用拡大支援」事業の実施に伴う変更  
運営費交付金「年俸制導入促進費」の措置による年俸制の導入・促進に伴う変更

< 中 略 >

**別表 (収容定員)**

|                |         |  |
|----------------|---------|--|
| 平成<br>27<br>年度 | 工芸科学部   | <u>2, 570人</u>   |
|                | 工芸科学研究科 | <u>1, 072人</u>   |
|                |         | $\left[ \begin{array}{l} \text{うち修士課程 } \underline{926人} \\ \text{博士課程 } \underline{146人} \end{array} \right]$ |

< 後 略 >

< 中 略 >

**別表 (収容定員)**

|                |         |  |
|----------------|---------|--|
| 平成<br>27<br>年度 | 工芸科学部   | <u>2, 543人</u>   |
|                | 工芸科学研究科 | <u>1, 129人</u>   |
|                |         | $\left[ \begin{array}{l} \text{うち修士課程 } \underline{973人} \\ \text{博士課程 } \underline{156人} \end{array} \right]$ |

< 後 略 >

工芸科学部・大学院工芸科学研究科の教育研究組織の改組に伴う収容定員の変更